

# 学生と地域が 連携した商店街へ

松山大学  
学生地域研究サークル  
五友の会  
副代表 宮田 潤



最初は何もないとこから

「久しぶりだねー。最近お店がお休みだからどうしたのかと思ったよ」と、その日はそんな会話から、お客さんや地域の人と私たちのコミュニケーションが始まりました。

私たち学生サークル「五友の会」は、週に2回、学生が店長になって柳井町商店街にある小さな居酒屋を切り盛りし、また、月に1回柳井町商店街でイベントを行うことにより、地域と学生の接点を作るといった活動を行っています。「久しぶり！」と会話が始まったのは、たまたま大学のテスト期間中でお店を4日間お休みしていたからでした。

柳井町商店街では、学生が商店街と連携し、地域を巻き込んだ取り組みが行われ始めています。学生にとって商店街が成長の場にながらただけでなく、商店街も若い力を活かして賑わいづくりを模索する、そんな関係がここにはあるのです。しかし、最初からこうした取り組みがあったわけではありません。高齢化の進んだ地域、シャッター街、そんな日本の代名詞のような商店街から活動は始まりました。

柳井町商店街と学生を  
繋ぐくれたSteady Crew

五友の会が、柳井町商店街で活動するようになったのは、「柳井町商店街の地域活性化をしよう！」と若者の団体「Steady Crew」が頑張っているのを応援しようと思った



いつも応援してくれる Steady Crew の皆さん

からです。Steady Crew が、衰退しつつある商店街で活動を始めたのは07年です。彼らは何もないところから商店街に飛び込み、数年かけて地域のコミュニケーションを大切にしながら活動した結果、今の私たちがありました。「まず、商店街で自分たちのことを受け入れてもらうことに一番苦労した」という彼らが、学生を受け入れる地域の体制を創り出し、そして「君たちのやりたいことをやりな！」と暖かく見守って応援してくれたからこそ、私たちがのびのびと活動できる環境が生まれたのです。今日の学生と商店街の連携は Steady Crew の存在なくして語れません。

活動する上で  
大切にしていること

私たちが柳井町商店街で活動する時には、3つのことを大切にしています。自分たちの活動資金は商店街で稼ぐこと、地域を巻き込んで活動すること、学生が商店街で想い出をつくることです。

どんな活動も継続するには資金調達をしなければなりません。そのため私たちは、Steady Crew 協力の下、商店街で週に2回、学生が店長となって居酒屋を運営することで活動資金を調達しています。しかし、いくら継続しても学生だけの活動にならないように、「地域の人の協力」に重点を置いたイベントを、月に1回行うようにもしています。



自分たちの居酒屋で誕生日会をしたとき



イベント「学生年明け祭り」の様子

当日のイベントよりも、その準備過程である商店街への挨拶回り、地域の人の打ち合わせ、地域調査を大切にすることで、顔が見える交流を心がけました。そして、なにより一緒に活動する学生が楽しまないと始まりません。だからこそ、商店街での想い出づくりも大切にしてきました。地域に想い出ができて愛着がわけば、地域に対しての想いも変わってくるからです。柳井町商店街で学生が商いをして、その資金で交流を目的としたイベントを行う、それを参加者の学生も一緒に楽しむ、といったプラスのサイクルが活動の要になっているのです。

地域の笑い声が鳴り響け

柳井町商店街は、まだまだ厳しいのが現状です。1年や2年の活動では地域が活性化しないことも痛感しました。しかし、Steady Crew が活動を始めて、さらに学生が加わったことで、少しずつですが地域の人の心の中に変化も出てきました。まるで、柳井町に積もっていた雪が解け始めたようです。

今年は、20年間歌詞だけで残っていた「番町音頭」にメロディーを加え、番町歌を製作する予定です。「柳井町で受け継がれる歌ができるのが楽しみだわあ」といったおばあちゃんの声は、私たちのやりがいです。柳井町商店街にも学生というメロディーが加わることで、地域に笑い声をもつと、そしてずっと鳴り響いてほしいと思います。



柳井町商店街にある私たちのお店